

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

4

2023.APR
VOL.154

 福岡銀行
 熊本銀行
 十八親和銀行



懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

世の中にたえて 桜のなかりせば、



▲原田家のしだれ桜(浄専寺近く 2022年4月3日撮影)



▲浄専寺の桜(県天然記念物)

四月初め、国道503号線を通って五ヶ瀬町に入ると「しだれ桜」の多さに気づく。車窓からあちらこちらに白く輝く桜を見つけたら嬉しくなる。なぜこの一带に「しだれ桜」が多いのか。地元の浄専寺に行けばその謎が解けるかもしれない。

江戸時代に九代目住職が京都本願寺参りの帰途、苗木を持ち帰ったといわれる樹齢3百年の「しだれ桜」は今も満開の花を咲かせている。近くの民家ではこの桜の子孫の木も大きく育ち、競うように咲いては集落全体を明るく輝かせている。その光景に花見客のほとんどがビククリしたような笑顔で「きれいなー」を連発している。

この地に暮らす人々が生まれて初めて見た「しだれ桜」に感動し、苗木をせっせと自宅の庭や山に植え、春を告げる桜花を見て喜んだ姿と重なり合うようだ。

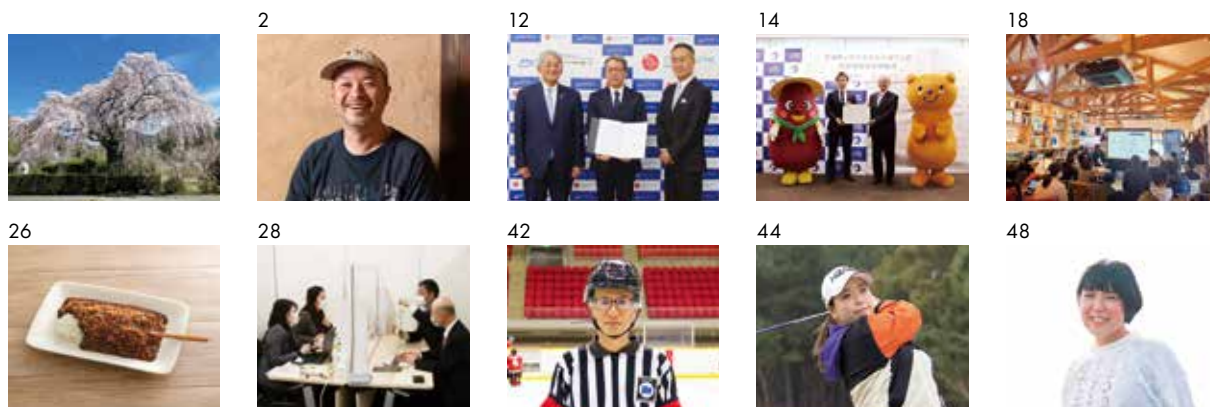
(文・阿井川圭)

◎浄専寺

住所：
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町三ヵ所
8701



CONTENTS



懐かしい情景を探して
世の中にたえて桜のなかりせば、

36 **START UP Company**
株式会社 レイヤード

2 **さすてなぶる九州**
新三郎商店 株式会社 代表取締役 平川 秀一 氏

38 **われら社会貢献企業**
株式会社 ニシイ

8 **寄稿**
5月開催「G7長崎保健大臣会合」

40 **釣り道**
壱岐島 月光の巨アジ編

18 **SDGs Initiatives NEW!**
壱岐市のSDGsの取り組み

42 **九州の星**
令和4年度国民体育大会
九州ブロックアイスホッケー審判委員長
熊本銀行 久留米支店 副支店長 川崎 誠也 氏

22 **地域と共生するFFG**
福岡県添田町

44 **GOLF MEGA STAR**
プロゴルファー 後藤 未有 氏

26 **九州の逸品**
ブラックモンブランがカレーになりました

30 **地域とつながるFFG連携プロジェクト**
歴まち融資を活用した熊本の“新たな拠点づくり”
新!感!選!東彼杵町ビジネスプランコンテストの開催

48 **長崎だより**
「誰もが自分らしく、すこやかにいきいきと在る世界」
を目指して

バックナンバー
のお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。



今月の表紙 阿蘇くまもと空港(熊本県上益城郡益城町)

表紙の写真は、熊本空港の新旅客ターミナルビルのエントランスです。熊本空港は1971年に供用開始され、「阿蘇くまもと空港」の愛称で親しまれています。2020年4月まで使われていた旧国内線ターミナルビルの跡地に建設されました。3月23日(木)のオープンに伴い、国内線・国際線のターミナル機能が一体化し、いずれの搭乗手続きも新ターミナルビルで行えるようになりました。延床面積約37,800㎡の4階建てで、熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、県産木材がふんだんに使われたデザイン性の高い空間となっています。

Sustainable Kyushu

さすてなぶる九州

新三郎商店株式会社

代表取締役

平川 秀一 氏

Shuichi Hirakawa

取引店／福岡銀行糸島支店



平川秀一社長

美しい海で、
昔ながらの塩づくり。

温暖化で変わりゆく海を守るため、
持続可能な塩づくりと
海の環境保護に挑む。

福岡県の糸島半島海岸で、濃縮した海水を釜で炊き上げる昔ながらの製法で作られた「またいちの塩」。製塩所「工房とったん」のほか、塩そばが味わえる「おしのちいたま」、販売所「新三郎商店」、食事処「ゴハンヤイタル」、喫茶室「sumi cafe」には連日多くの観光客が訪れています。

それら大人気のスポットを運営する新三郎商店株式会社の平川秀一社長は、塩の製造・消費過程でCO₂を排出しないさまざまな取り組み、さらには塩を生んでくれる海の環境保護のためのビーチクリーン活動に積極的に取り組まれています。これまでの新三郎商店の歩んでこられた経緯と合わせて、お話を伺いました。

料理の原点である塩に注目
糸島の海で始めた本物の塩づくり

糸島半島の一角、製塩所「工房とったん」を構えたのが2000年5月、私が25歳の時でした。塩との出会いは、建築学を習得するためにカナダに渡った時、現地の日本料理店で働いたことがきっかけでした。和食において、塩は唯一無二の存在です。和食では特に、微妙な塩加減が味を決定づけるため、店主に厳しく指導されました。次第に、和食の奥深さに魅せられ、カナダを離れた後、スウェーデンやイギリスでも日本料理店で働きながら旅しました。

海外で塩というところ一般的には岩塩を指します。岩塩は長い年月をかけて海水が結晶化したもので、産地は世界中に広がっています。一方、自然海塩は、海水から手間暇をかけて作られるので、欧米では非常に貴重な調味料として認知されています。



製塩所「工房とったん」

日本では過去、塩は国が管理する専売制となっていました。しかし、1997年に専売制が廃止され、塩の製造や販売が自由になりました。私が海外から日本に戻ったのがちょうどその頃で、自ら製造した塩で料理を作りたいという想いが募っていました。実家のある福岡に戻り、和食店で働きつつ、海塩の製造に適したところはないかと、九州北部の海岸などを見て回っていました。

その時に出会ったのが糸島半島西側の入り江となった海岸です。福岡県の海岸はほぼ北に面していますが、ここは南に海と面しており、周囲に建物もなく日当たりも良好。玄界灘の内海と外海がぶつかり合い、山と海の豊富なミネラルが混ざり合う場所で、何よりもこの海のきれいに惚れ込みました。父と二人三脚で、竹で塩田を組み、汲み上げた海水を上から竹に伝わせ、何日もゆつくりと循環させ、濃度を上げていきます。梅雨時期には、1か月もかかるこの工程を経て、濃度が高く、なつた海水を平金に移し、約3日間煮詰めていきます。そして、ようやく塩の結晶が現れ、それを更に2〜3か月かけて自然乾燥させる

ことで、ようやく塩が作られるのです。

父の名前をつけた「またいちの塩」は、にがり成分を若干残しているため、少ししつとりとしており、サツと溶けやすいのが特徴です。海のミネラルが豊富で、口にくむと辛さが残り、素材の美味しさを引き立てる塩本来の味が伝わってくると思います。

「またいちの塩」を使った

飲食店を展開

駅近くには塩そば屋も新規オープン

その「またいちの塩」の良さ、糸島の良さをもっとたくさんの人に知っていただきたくて、2006年、「またいちの塩」で糸島の旬の食材の旨さを引き出した料理を提供する「ゴハンヤイタル」を、西九州道(福岡前原道路)前原インターを降りて車ですぐのところにおープンしました。ここには、すっかりお馴染みとなつている「しおをかけてたべるプリン」をはじめ、イタルで使っている調味料や雑貨を販売する「新三郎商店」、築120年を超えるお屋敷にあった馬小屋を改装して作られたカフェ

「sumi cafe」、その横には井戸水を汲み上げ、クレソンが自生する小川が流れる公園を整備しています。

「イタル」「新三郎」や「sumi」はそれぞれ父方や母方の祖父母の名前なのですが、特に、母方の祖父にあたる「イタル(格)」は食べることに大好きだったという思い出があります。「美味しい」と感じる味覚というのは親子、そして孫と、受け継がれていくものであり、やはり家族の中心にあるのは「食」ではないかと考えた時、自然にこの名前を店名にしました。

糸島は海も素晴らしいですが、山も魅力的です。そのため、アクセスなどの利便性を考慮して、店舗は山の自然を感じられる場所に構えました。特に3年前に果樹園を整備したことで、気候が良い時にはテイクアウトして外で食べたり、食事や買い物後にゆつくりと過ごすに思っています。

また、2021年にはJR筑前前原駅から徒歩3分の場所に「おしのちいたま 塩そば屋」をオープンしました。この名前は「またいちの

Sustainable Kyushu



上.右から新三郎商店・ゴハンヤ イタル・sumi cafe/右下.おしのちいたまの塩そば/左下.しおをかけたたべるプリン

しお」を逆さまに読んだもの。ちょっとした遊び心と新しい試みを意味しています。糸島は、今や全国や海外にも知られるようになってきました。駅前には寂しい頃のままです。これまでの恩恵を還元する意味で、少しでも活性化のお手伝いをしたいという思いから、この場所を選びました。

温暖化による海の変化に危機感 商品もプラスチックから紙へ

もともと「またいちの塩」は、できる限り自然を守っていきたく、廃材などの再生燃料を使っていますが、やはりCO₂の発生をすべて抑えることはできません。そこで、少しでも発生量を少なくしようと福岡市内の飲食店から出る天ぷら油などの廃油を利用するほか、九州大学の協力を得て太陽光を使ったシステムづくりなど、持続可能なエネルギーで塩を製造できるような取り組みを始めています。九州大学との取り組みは、2023年の内には実現できるのではないかと見込んでいます。

私たちは糸島の海の恩恵を^{あずか}与り、これまで

歩んできました。しかし最近、この海に異変が起きていると感じています。塩田がある海岸は、昔から海藻がよくつく場所で、海の生き物の産卵などに適した場所でした。ところが、温暖化の影響で海水の温度が上昇し、海藻が著しく減少・消失し、繁茂しなくなる「磯焼け」が発生しています。また海藻が減少した影響でウニに身が入らなくなり、漁師たちも獲らなくなってしまう、その結果、ウニが大量に発生し、少なくなった海藻を食べ尽くしてしまうという悪循環が起きるようになったのです。そんな中で、何かできることがないかと考え、この厄介者となってしまったウニを身がたっぷりとなるよう養殖して、商品として提供できないかと準備を進めています。

持続可能な取り組みは私たちの商品についても同じです。新三郎商店で販売する「またいちの塩」のパッケージを、ビニール製から紙製に変更し、プリン容器もプラスチック製からリサイクル可能なビン製に、添付のスプーンもプラスチック製から紙製に変えました。塩に関しては、パッケージを紙製にしたことで湿気をほどよく吸い取ってくれ、保存がしやすく

なりました。コストはかかりますが、これらの取り組みは、海を守ることを考えると当たり前のことだと思っています。

また、海を可能な限りきれいにしたいと、店休日などを利用して糸島のビーチクリーン活動を弊社スタッフと一緒にしています。海岸に漂着するゴミのほとんどが漁具などの海洋プラスチックです。そこで、環境保護の啓発の意味も込め、少しでも海洋プラスチックの現実を知っていただきたいという想いで商品化し、



海洋プラスチックごみから作られたソープディッシュ

海洋プラスチックから生まれたソープディッシュなどの雑貨を、新三郎商店で販売しています。現在、これらの商品の製造は横浜の工場に委託して行っていますが、原料や製品の輸送にCO₂が発生しては意味が薄れてしまうため、糸島の福祉施設などで生産工程の一部をまかなえないかと模索しています。リサイクルや環境保護を当たり前のこととして捉え、糸島の未来が守られるよう、これからもこのような取り組みを続けていきたいと思っています。



平川秀一社長



新三郎商店前にて左から平川社長、丸田支店長(福岡銀行、現大橋支店支店長)

新三郎商店 株式会社

- 本社所在地：〒819-1151 福岡県糸島市本1454
- 電話番号：092-330-8732
- 事業内容：塩の製造・販売、小売、飲食
- 事業所：またいちの塩 製塩所「工房とったん」(糸島市志摩芥屋3757)
新三郎商店・ゴハンヤ イタル・sumi cafe
おしのちいたま(糸島市前原西1-6-22)



オンラインショップ (<https://shinzaburo-shoten.shop>) はこちら





この手から、この長崎から。

G7 NAGASAKI

Health Ministers' Meeting

長崎保健大臣会合

2023. 5.13-14 会場 → 出島メッセ長崎
G7長崎保健大臣会合推進協議会

5月開催「G7長崎保健大臣会合」

政府系の国際会議としては長崎で初めての開催となる「G7長崎保健大臣会合」が、今年の5月に長崎市で開催されます。現在、地元長崎では、オール長崎で会合を成功に導くため、さまざまな取組を進めています。

G7長崎保健大臣会合

G7広島サミット（5月19日（金）～21日（日））の開催に伴い、関係閣僚会合の一つである保健大臣会合が、5月13日（土）から14日（日）の2日間、長崎市の出島メッセ長崎で開催されます。

このG7長崎保健大臣会合は、主要7か国及び欧州連合（EU）の保健担当大臣をはじめ、世界保健機関（WHO）や世界銀行など国際機関の関係者が参加し、「国際社会が直面する保健分野の課題」について話し合われます。

2022年にドイツで開催された会合では、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症のパンデミックを克服するための対策を中心に議論されました。今年、長崎で開催される会合では、新型コロナウイルス感染症のパンデミック等を踏まえ、世界的な保健システムの構築と強化、それらを通じて、より公平かつ持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（全ての人々が適切な保健医療サービスを負担可能な費用で受けられる状態）達成への取組などについて議論が交わされる予定です。

※G7サミット：フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ（議長国順）の7か国並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加し、毎年開催される国際会議です。会議では、各国の首脳が、世界経済、地域情勢、さまざまな地球規模の課題について意見交換を行います。今回は7回目の日本開催で、広島が会場となります。



長崎での開催とその意義

長崎は、日本の西洋医学教育の発祥の地であるとともに、「医学伝習所」を起源とする長崎大学では、国内唯一の熱帯医学研究所のほか、感染症研究施設「バイオセーフティレベル(BSL)4」の稼働も準備され、最先端の感染症研究が進められるなど、世界の医療、公衆衛生分野の発展に貢献してきたことが、今回の会合の長崎開催につながったものと考えています。



会合の開催に当たって、各国要人をはじめ、関係者、メディアの方々をおもてなしの心でお迎えするとともに、歴史・文化、自然、食などの多彩な魅力や平和への思いを発信する機会にしたいと考えています。

今回の会合を成功へ導くことで、主要な国際会議の開催実績として蓄積されるとともに、国際会議などが開催できる魅力的な都市として国内外に認知されます。それにより、さらなる国際会議の受け入れにつながり、ひいては交流人口の拡大や経済活性化が見込まれます。

オール長崎で取組を推進

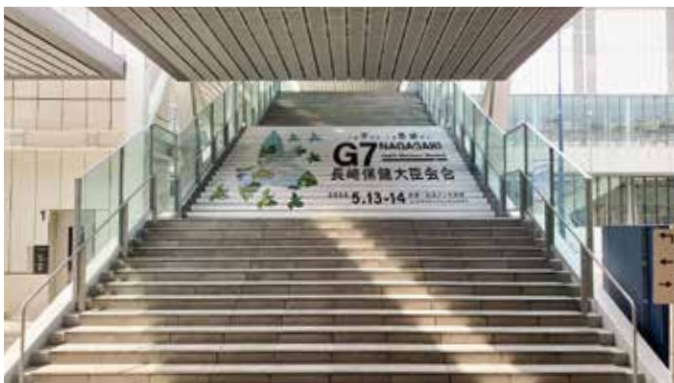
会合の開催に向けて、2022年11月に、行政、医療・保健衛生、産業経済、観光・宿泊、交通・

運輸、報道機関など幅広い分野の団体からなる「G7長崎保健大臣会合推進協議会」を立ち上げ、会合の開催準備を進めるとともに、県民・市民への会合の周知や歓迎機運の醸成などに取り組んでいます。

現在、J-R長崎駅、長崎空港及び県長崎市の庁舎にカウン

ダウンボードを設置しているほか、会場となる出島メッセ長崎の周辺やまちなかには、会合開催の広報デザイン(キービジュアル)を用いた階段ラッピング広告やバナーフラッグなどの掲示を行い、会合開催の周知を図り、おもてなし機運を高めています。

カウンタダウンボード設置に



上.出島メッセ長崎の階段ラッピング広告/下.懸垂幕とバナーフラッグ



カウントダウンボード除幕式の様子



パネルディスカッションの様子



ながさき健康宣言



G7オリジナルカクテルとコースター

際して、長崎県庁で開催した除幕式では、地元・長崎市の「おとり幼稚園」の園児たちが元気なマーチングを披露し、華を添えていただきました。

会合100日前を迎えた2月5日(日)には、出島メッセ長崎で「G7長崎保健大臣会合100日前フォーラム」がさき健康宣言「〜」を開催しました。フォーラムでは、「ポストコロナ社会に向けて健康・医療課題を考える」を

テーマとした長崎大学の専門家や大石賢吾長崎県知事らによるパネルディスカッションのほか、長崎健康革命スペシャルサポーター大久保嘉人さんのトークショーや、県の健康づくりの取組紹介があり、最後にフォーラムの内容や本県が抱える「健康増進」「医療的ケア」「医療ICT化」の三つの課題を踏まえた「ながさき健康宣言」を发出了しました。

また、個人や企業等が会合を

自主的に応援する取組「G7ながさきアクション」では、皆さまからさまざまな企画が寄せられ、会合の開催を一緒になって盛り上げていただいています。

このうち、長崎市内のBAR 15店舗では、G7各国をイメージしたオリジナルカクテルを企画し、地元の建設会社が生産したオリジナルコースターとともに提供する取組を行っています。



G7スペシャルランチ「コック・オ・ヴァン(鶏肉の赤ワイン煮)」／フランス料理

その他、長崎県庁レストラン「シエ・デジマ」では、G7各国にちなんだ食材を用いたスペシャルランチ(各7回、限定100食)が3月15日から4月26日までの毎週水曜日、週替わりで提供され、多くの方楽しんでいただいています。

会合開催まで限られた時間ではありますが、引き続き、会合の主催者である厚生労働省をはじめ、警察などの関係機関とも

一層連携を図りながら、開催地長崎として万全の体制を整えていきます。

G7スペシャルランチ

	提供日	国名	名称
第1回	3月15日	フランス 	コック・オ・ヴァン
第2回	3月22日	アメリカ 	ジャンバラヤ
第3回	3月29日	イギリス 	フィッシュ アンド チップス
第4回	4月 5日	ドイツ 	ポーク シュニッツェル サワークラウト添え
第5回	4月12日	日本 	白身魚の塩麹焼き
第6回	4月19日	イタリア 	ポークのインボルティーニ・ミント風味
第7回	4月26日	カナダ 	豚ソテー・メープルマスタードソース

お問い合わせ先

G7長崎保健大臣会合推進協議会
TEL.095-895-2091

会合に関する最新情報を協議会のウェブサイトやSNS (Instagram・Twitter) で発信していますので、ぜひご覧ください。



Topics of the month

FFGが中国信託フィナンシャルホールディングと 業務提携を締結し、 熊本で台湾ビジネスセミナーを 盛大に開催!

FFGは2022年12月19日、FFG本社ビルにおいて台湾の民間最大手金融グループ・中国信託フィナンシャルホールディング（以下CTBCFH）と業務提携に関する覚書の調印式を行いました。23年3月9日には、提携を記念して台湾や半導体をテーマとしたセミナー「台湾ビジネスセミナーin熊本」TSMC進出で熊本・九州はどう変わるのか」を熊本城ホール（熊本市）にて開催しました。

業務提携

FFG傘下の福岡銀行では2016年3月にCTBCFHと業務提携して以後、双方の取引先への金融サービスの提供やビジネスパートナーの紹介、商談会の共同開催などを実施してきました。九州では、台湾の半導体受託製造大手TSMC

の熊本進出を機に、半導体関連企業の進出をはじめとする産業の活性化やシリコンアイランド九州の復活に対する期待が高まっています。

今回の業務提携は半導体関連だけにとどまらず、幅広い分野の企業やスタートアップの相

互進出なども支援することで、地域経済の活性化に貢献することを目的としています。また、両社のグループ機能やノウハウの相互活用などにより連携を強化していくことで、九州と台湾の経済をつなぐ役割を果たしていきます。



左から、熊本銀行野村頭取、FFG五島社長、CTBCFH蕭仲謀日本クロスボーダー事業執行役



調印式の様子

台湾ビジネスセミナー

業務提携後の最初の取り組みとして開催したセミナーでは、半導体、観光、不動産、自治体関係者など国内外から多数お申し込みいただき、会場とオンラインあわせて約1,400名の方がご参加ご視聴し、盛況のうちに終了しました。



講演を行う中国信託商業銀行最高顧問 馮 寄台氏

第一部では日本と台湾の交流に永年ご尽力されている元台湾駐日代表で中国信託商業銀行最高顧問の馮寄台氏から台湾と日本の関わりや台湾の生活習慣等に加え、台湾経済が発展していく過程で、どのように半導体産業が成長してきたかについてご講演いただきました。また、第二部のパネルディス



(左から)岡野 秀之氏(九州経済調査協会事業開発部 部長)、秋吉 英二氏(九州経済産業局 地域経済部 次長)、三輪 孝之氏(熊本県商工労働部 部長)、青柳 昌宏氏(熊本大学半導体研究教育センター センター長)、松尾 直 氏(台日産業連携推進オフィス 顧問)

カッションでは、各分野の有識者5名の方々より、T S M Cの熊本進出を受けて、それぞれの立場から現在の取り組み状況や解決すべき課題、熊本・九州が今後果たすべき役割や10年後の姿などについて、幅広い視点で議論いただきました。登壇者からは、喫緊の課題として「半導体人材の確保と育成」が指



閉会の挨拶をされるCTBCF 藤 仲謙日本クロスボーダー事業執行役

摘されました。セミナー参加者からは、「非常にタイムリーなテーマで、充実した内容のセミナーであった」などの声をいただきました。これからもF F Gは地域経済の活性化と発展に貢献してまいります。



セミナー会場の様子

Topics of the month

熊本県大津町と熊本銀行が 包括連携協定を締結しました！

本年3月8日(水)、熊本県大津町は熊本銀行と包括連携協定を締結しました。



署名した協定書を囲んで(前列左から大津町佐方美紀副町長、金田英樹町長、野村頭取、北岡取締役常務執行役員、後列左から大津町藤本聖二総務部長、剣持大津支店長)

2021年11月、台湾の半導体受託製造大手TSMCの菊陽町進出が決定し、熊本県は日本のみならず世界からも注目を集めました。TSMC進出決定後、大津町には、半導体関連企業のみならず、物流、人材派遣会社などの企業進出が公表されています。すでに進出している企業の工場増設なども発表され、TSMC進出の影響の大き

さを物語っています。

インフラ面では、空の玄関口となる阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルが3月23日にオープン。昨年12月の熊本県議会でも空港アクセス鉄道は、肥後大津ルートと蒲島熊本県知事が表明、今後、国内外からの来訪が見込まれ、さらなる町の発展に寄与することが予想されています。

金田英樹町長は、政策提言として7つの政策視点で「新しい大津町をつくる101の具体策」にまとめ、実現に向けて取り組まれています。熊本銀行は、大津町が進める施策の実現について、一緒に協議を重ねてきましたが、これまで以上に大津町との連携を深めるために連携協定を締結する運びとなりました。

熊本銀行は金融的な機能にとどまらず、FFGが持つあらゆる機能を活用し、まちづくり、企業誘致、地域振興、海外経



署名を終え撮影に応じる金田町長と野村頭取



協定書に署名する金田町長と野村頭取

済交流・海外情報の提供など、施策実現への全面的なサポートを行います。

熊本銀行は金田町長の目指す「新しい大津」のまちづくり実現に向けて支援するとともに、地域に寄り添った取り組みを進めてまいります。

FFG経営者クラブ会員様限定 新サービスのご案内

無料学習動画サービスの 大幅拡充



2023年3月からインターネットセミナー（無料学習動画サービス）のラインナップが大幅に拡充されました。

FFG経営者クラブの会員企業様は、下記3シリーズのすべての動画を**24時間いつでも無料**でご利用いただけます。企業様毎に会員IDを配布し、1アカウントで何名様でも同時にご利用いただけますので、**社内研修、社員様の自己啓発**、にご活用ください。
※会員様には別途ログインID・会員ID・パスワードのご案内を差し上げます。

ナレバス+ KnowledgeBasketPlus

社内研修用DVDとして人気の動画が、約1000本見放題。ドラマ仕立ての動画もあり、そのまま研修動画としてもご利用いただけます。今までFFG経営者クラブでレンタルいただいていたDVDも多数ございます。

動画タイトル例)

- ・新入社員ブートキャンププログラム
- ・DVDの映像とテキストで学ぶ「これだけでできる人事考課」
- ・よくわかる 情報セキュリティ講座

SmartSkill VideoLibrary

大手企業各社が社内教育で利用している動画664本が見放題。新入社員から管理職まで階層別の教育に対応する幅広いポータブルスキルに「情報セキュリティ」を加えた、充実のラインナップです。

動画タイトル例)

- ・ビジネススキル(ホウ・レン・ソウ、仕事の進め方、ビジネス電子メールの原則...)
- ・ロジカルシンキング(演繹法と帰納法、因果関係、MECE、ロジックツリー...)

BUSINESS LAWYERS

各種ハラスメントやお酒のマナー、LGBTQなど、弁護士によって監修されたコンプライアンス研修動画です。動画はすべてショートドラマ仕立てで、受講者の興味を惹きつけ理解を促します。社内のコンプライアンス研修等にお役立てください。

動画タイトル例)

- ・パワハラ～指導のつもりでも責任を問われる職場での「口激」～
- ・著作権・商標権～営業資料へのイラスト無断使用で巨額の使用料を請求される!?～

ログイン方法

FFGビジネスコンサルティング
トップ画面



<https://www.ffgbc.com/>

FFGビジネスコンサルティング

検索

FFG経営者クラブトップ画面



クリック

ログインID・会員ID・パスワードを
入力してください。



※ログインID・会員ID・パスワードは、別紙通知書をご参照ください。

視聴したいセミナーを選択してください。



講座ランキングやカテゴリタブもご参考に
ご覧ください。

FFG経営者クラブ
お申込み
お問い合わせ先

TEL. 092-723-2241
FAX. 092-721-9258

株式会社FFGビジネスコンサルティング内
FFG経営者クラブ事務局

〒810-0001 福岡市中央区天神2-13-1
受付時間 9:00～17:00 (但し、銀行休業日は除く)

～令和時代も社会人の必須スキル～

接遇・マナー 実践セミナー

接遇やビジネスマナーは、職場内はもちろんお客様とのコミュニケーションや信頼関係の土台であり、全てのビジネスパーソンに必須となるスキルです。このセミナーでは、押さえておきたい知識とワーク実践を中心に“接遇・マナーが必要な理由”を考えながら、“現場で実践する・できる”ことを目標に進めます。新入社員の方は、社会人のファーストステップに必要なマナーの基本習得のために、既に現場で経験を重ねた若手社員の方には、あいまいな点や我流を見直し、今の立場や役割によりパフォーマンスを発揮するための“学びなおし”となるセミナーです。講師がエアラインで実践していた上手いくコミュニケーションのコツや失敗から学んだことなど、皆さんの日頃の仕事に活かせるヒントとしてお伝えします。接遇・マナーの基本を見直し、ビジネスパーソンとしての魅力を一緒に磨きましょう!



講師プロフィール

Office y Quality 代表

イケマツ

ユキ

池松 由紀氏

「人のちからは大きな価値を生む」をモットーに、組織内のコミュニケーションや接遇品質の改善など、人の可能性を引き出し活かす育成研修、職場の人材育成体制構築のコンサルティングをはじめ、大学でキャリア講義を行う。求める人材像と期待する成果に焦点を合わせた、サポートが強み。前職は大手航空会社グランドスタッフとして約17年勤務。VIPやクレーム対応はじめ責任者としての実務、組織内マネジメントや接客サービス面の品質管理、教育インストラクターとして10年以上従事する。また、空港立ち上げに携わり、業務手順や組織内人材育成などを一から構築することの大変さと経験以上の役割を求められ、周囲と協力しながら必死で乗り越えた経験は今に生きている。

- 国家資格キャリアコンサルタント
- 特定非営利活動法人日本キャリア開発協会認定 CDA
- 日本マナー・プロトコール協会講師養成講座修了
- ポジティブサイコロジースクール認定 レジリエンストレーナー
- 裏千家茶道講師 茶名 宗由

主なプログラム

1. 接遇・マナーの基本 ～基本の型をととのえる～

- ◆接遇とは ◆接遇・マナーの重要性(Customer Satisfaction)
- ◆マナーとは ◆マナー5原則(表情・挨拶・態度・身だしなみ・言葉づかい)

2. シーン別マナー ～会話をブラッシュアップ～

- ◆電話対応 ◆名刺交換 ◆席次 ◆来客対応/訪問のマナー

3. 接遇・マナー力を仕事で発揮する

- ◆信頼関係をつくる ◆報告・連絡・相談をレベルアップ
- ◆クレーム対応の基本ポイント ◆接遇マナー力とこころの関係

開催方法

対面・Zoom

時間

全日程 10:00-17:00

開催日・会場

2023	5/16火	福岡市会場:福岡銀行本店ビル	福岡市中央区天神2-13-1 4Fセミナールーム	対面
2023	5/19金	オンライン		Zoom
2023	6/8木	北九州市会場:福岡銀行 小倉支店	北九州市小倉北区船場町2-1 5F小倉セミナールーム	対面
2023	7/19水	オンライン		Zoom

対象

新入社員・若手社員
ビジネスマナーを学び直したい方

定員

会場開催 各30名
オンライン開催 50名

受講料 (税込) / おひとりさま

FFG経営者クラブ会員 **10,000円** 会員以外 **15,000円**

(FFG経営者クラブ同時入会申込時は10,000円にて受講可)

お申込み 方法

- 1.下記のホームページにアクセスの上、「セミナー・研修会」の「募集中のセミナー」よりお申込みください。
FFGビジネスコンサルティングホームページ <https://www.ffgbc.com/>
- 2.後日、お申込時にご登録いただいたメールアドレスにセミナーの詳細をお送りします。

お問い 合せ先

株式会社FFGビジネスコンサルティング 〒810-0001 福岡市中央区天神2-13-1
TEL 092-723-2244 FAX 092-721-9258



申込コード

吉岐市の SDGsの取り組み

ふくおかフィナンシャルグループは、長崎県の離島である吉岐市の「吉岐市地方創生テレワーク推進」について事業支援を行っており、その事業の一環として4つの取り組みを実施しました。

この事業は、地方からデジタルの実装を進めるとともに、

「転職なき移住」を実現し、地方への新たなひとの流れを創出することで、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮めていくことを目的とする

「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の制度主旨に基づき、

吉岐市のSDGs未来都市、テレワーク環境、豊かな自然などの強みを生かした地方創生テレワーク環境を推進することで、関係人口の創出、サテライトオフィス等の誘致の実現を目指すものです。

これらの取り組みを通じ、

吉岐市においてのワーケーション・テレワークなどを目的とした来訪や

事業創造・地域課題解決に向けたコラボレーションのきっかけ、

さらには、関係人口・共創人口の創出に繋がりました。





明星和楽 in 壱岐の開催

令和4年12月2日～3日

「明星和楽」とは、福岡市を拠点に2011年から開催しているスタートアップやクリエイターなど様々な方との「異種交創」をテーマとしたビジネス交流イベントです。自然豊かな環境かつ、地域課題解決型や事業創造型の新ビジネスに取組む多くの方がいる壱岐市で開催することで域内外の人々との交流の機会や更なるコラボレーションの機会に繋がることを狙っており、壱岐市では初めての開催となります。本イベントでは、壱岐イルカパーク&リゾートをメイン会場とし、壱岐市のキープアソン等のカンファレンスやネットワーキング、ワークショップ等施設等をめぐるスタンプリー企画を実施し、壱岐市内・福岡市内はもちろん、北海道・関東・関西エリアからの参加も含め総勢96名（オンライン視聴131名）が集まり、活発な交流が行われました。



大学生が参加したSDGs共創キャンプ

令和5年2月21日～22日

春休みの期間を利用して、九州大学 共創学部及び芸術工学部の学生8名が吉岐市に訪れ、フィールドワーク・ワークショップを行う「SDGs共創キャンプ」を開催しました。プログラムでは、吉岐市で教育やまちづくりなどに取組む移住者等との交流をはじめ、地域の持続性に取組む事業者（地域の伝統産業である吉岐焼酎、再生可能エネルギーを活用した陸上養殖、雇用創出・新製品の開発に取組むオリブ園、民宿事業など）、吉岐イルカパーク&リゾートなどの観光施設でのフィールドワークを行った上で、若い感性でのアイデア創出を行うワークショップを行いました。地域の人の交流などにより学生の新たな気づきや多様な生き方・働き方を知る機会となり、それと同時に、地域事業者にも新たなアイデアや気づきが生まれた共創の機会となりました。

エンゲージメント コミュニティ ラボメンバー参加のSDGs共創キャンプ

令和4年12月2日～4日

吉岐市は、慶應義塾大学SFC研究所及びリクルートヒトラボと連携し、『エンゲージメント コミュニティ ラボ』を始動しています。関東・関西・北海道・福岡市など様々な地域に住むメンバーが吉岐市に訪れ、フィールドワーク・ワークショップを行う「SDGs共創キャンプ」が開催されました。当日は、吉岐市に新設された3つのワーケーション施設などの島内視察、明星和楽参加を通じて島内の環境や人々との交流を行い、グループで吉岐市をさらに盛り上げるアイデア創出のワークショップ・ブディスカッションが行われました。各年代の社会人の学びの提供や、エンジニア・デザイナーのコミュニティ形成、磯焼けなどの地域課題を所属企業のリソースを活用しての解決など吉岐でビジネスを考えるきっかけや吉岐での取組みに新たなヒントを得て今後も引き続き交流するきっかけとなりました。



吉岐なSDGs共創セミナー@福岡市大名

令和4年11月9日

「まち全体がキャンパスとなり、人と人が学び合い、つながっていく、コミュニケーションの輪が広がるプロジェクト」福岡テンジン大学とのコラボレーション授業を開催しました。授業では、吉岐市SDGs未来課の中村氏による吉岐市の紹介や、グループワークでの吉岐市を盛り上げるアイデア出し等が行われました。総勢32人の参加をいただき、今度吉岐に行ってみたいとの声や今後も吉岐市の情報提供をして欲しいとの声も多く聞かれました。



添田町



英彦山神社 奉幣殿

かつて日本一の石炭を産出した筑豊エリアの東南に位置する添田町。すでに炭鉱は閉山し、ピーク時の1955年に28,000人ほどだった人口も、現在は3分の1以下の約8,800人にまで減少しています。過疎化や高齢化は進みましたが、添田町ではまちのシンボルである耶馬日田英彦山国定公園・英彦山の魅力を活かした観光振興に努め、毎年90〜100万人ほどの観光客が訪れています。

しかし、添田町に訪れる観光客は45%が県内在住者、96.7%が日帰り客という点で、町を周遊する人が少ないという課題を抱えています。そこで、添田町の豊かな自然や歴史を活かした資源を活用し、観光振興を進め、人の流れを町に作り、交流人口の拡大、移住・定住を図る施策を考えることになりました。

まず、「道の駅 歓遊舎ひこさん」を中心とした賑わいの創出として、周辺施設の整備と周囲にある特徴的な自然を活かしたアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・添田」を2023年4月29日にオープンする

予定です。自然の立ち木の上に作られた足場から、コースの樹間のアクティビティを次々に渡っていく小人から大人まで世代をこえて自然を楽しむことができる施設です。

フォレストアドベンチャー・添田はパークへの移動に線路跡を歩くなど、移動中も楽しむことができます。また、物産館や道の駅の施設内にある「こどもわくわくパーク」との導線などの整備や駐車場の増設など、施設を満喫するための環境が整えられています。

次に、英彦山周辺の環境整備として、17年前に整備されたスロープカーの車両更新をおこないました。今回の車両更新に伴い、銅の鳥居前から花駅間は廃止され神駅と花駅を繋ぐ路線のみを残しています。これは銅鳥居からの参道の風景を満喫してほしいという想いがあります。

スロープカーのデザインは「駕籠かご」をイメージしており、漆塗りを連想させるベンガラ色の外観に、車内の椅子は畳を使用。簾を取り付け和を感じる車両が完成しています。参道を登った先、スロープカーで神駅を



降りると英彦山神宮があります。現在、英彦山神宮では上宮及び山内の摂末社せつまつしゃの保存修理事業を開始しており、添田町の歴史にとって重要な信仰に対する尊厳や歴史的資料を残していく多面的な取り組みが行われています。英彦山神宮は「修験道の復活」、「門前参道の賑わいの復活」、「宿坊の復活」という3つの観点でのアプローチをおこなっています。具体的には上宮の改修、奉幣殿ほうへいでん横へのカフェオープン、参道沿いでの宿泊事業を計画しており、参拝する人がくつろぎ、英彦山にさらなる魅力を感じてもらうことが目的です。

これらの取り組みを行ってきた施設を繋ぐのが、JR九州が運営するBRT（バス・ラピッド・トランジット）です。添田駅⇩道の駅 歓遊舎ひこさん⇩彦山駅の移動が容易となります。添田町を周遊してもらうことで、観光消費の促進や宿泊に繋がることとが期待されています。

今後も添田町では、地域の発展を目指し、マネジメントを行う人的資源の確保や添田町の魅力を引き出す取り組みを引き続き推進していきます。



添田町長

てらにし あきお
寺西 明男 氏

添田町は豊かな自然や歴史を有しています。特に英彦山は山形・羽黒山、奈良・大峰山と並ぶ「日本三大修験山」に選ばれており、霊山として日本を代表する山岳信仰の歴史・文化や雄大で貴重な自然環境があります。また、町の清流や豊かな自然で育まれた農作物、それを加工した特産品を求めて、道の駅 歓遊舎ひこさんには多くの人が訪れています。

非常に恵まれた環境のある添田町ですが、他の山間地と同様に高齢化や人口減少が大きな課題となっています。

課題を解決していくためには、添田町の特色を活かした観光振興に注力し、添田町の魅力を高めていくことが重要です。

2014年に国から「添田町歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、郷土・町の歴史と文化を生かしながら、誇りを持つ「まちづくり」に尽力してまいりました。

今回、BRTを契機とした地域振興を推進し、町の賑わいを形成する拠点である道の駅 歓遊舎ひこさんの周辺に集客力の

ある体験型コンテンツ、フォレストアドベンチャー・添田をオープンする計画を進めており、観光客の滞在時間を延ばして回遊性を高めることを目指します。

町のシンボルである耶馬日田英彦山国定公園内を走るスロープカーの更新により、英彦山の自然を満喫した空中散歩を実現、同時に英彦山神宮の上宮修復を補助し、添田町の重要な山岳信仰の歴史を守り続けていきます。

今後の添田町では、地域の特色を活かした観光振興の推進で移住人口・交流人口の増加を目指し、添田町の町づくりにかわる人材を増やしていきたいと考えています。そのためにも、多くの人の知見を取り入れながら、添田町の自然と歴史を活かした施策を推進し、さらなる発展を目指してまいります。

英彦山神宮 宮司

たかちほ ひでとし
高千穂 秀敏 氏

英彦山神宮は、平安時代以降に神道と仏教が結びついた「神仏習合」の聖地として信仰を集め、朝廷からも一目置かれる存在でした。

江戸時代には、「彦山（※）三千八百坊（3,000人の衆徒と800の坊舎）」と謳われるほどの宗教都市機能を有する巨大な門前町でしたが、明治元年の「神仏分離令」、明治5年の「修験禁止令」公布から徹底した神道化が推し進められ、ここから修行をしていた山伏（修験者）は離散し、峰入修行も断絶することになりました。当時の風情を残す800あった古坊も10数坊ばかりの寂しい町並みになってしまっています。

このままでは、山岳信仰の聖地であり日本三大修験道のひとつであるという歴史の記憶が、地域でおぼろげなものになってしまふという課題を抱えています。

そのため、英彦山神宮を信仰する人にとって価値のある存在として守っていくために、2018年から上宮及び山内の摂末社の保存修理事業を開始しました。この

修復保存には、数十億円の経費を要するため、神宮独自の財源ではとても及ばない事業でありましたが、英彦山神宮を大切に想ってくださる方から御奉賛の支援をいただき、修復作業に取り組むことができています。倒壊寸前で立ち入りが禁止されていた上宮は大規模な修復を経て2025年11月に完成予定です。

英彦山神宮を支えてくださる多くの方々に応えるため、上宮及び山内の摂末社の保存修理事業を完了させ、貴重な文化を後世に繋いでいくことが私たちの使命と考えています。

また、参拝する方がくつろぐ時間を作れるように奉幣殿の横にカフェのオープンをするように奉幣殿の横にカフェのオープンの計画。地元の方々が守ってきた貴重な宿坊の整備活用計画を推進していきます。

今後も、添田町と協力し、添田町の魅力の一つである歴史ある英彦山神宮の文化を守り続けるために尽力してまいります。

（※）英彦山は、靈元法皇から「英」の字を賜り「英彦山」へ。それ以前は「彦山」「日子山」と表記される。

ランが



FILE No.64

九州の「地域の特産品」を
ご紹介致します。



★唐津
★小城



■会社概要

 **宮島醤油株式会社**

佐賀県唐津市船宮町2318
取引銀行／福岡銀行 唐津支店



 **山下製菓株式会社**

佐賀県小城市小城市池上2500
取引銀行／十八親和銀行 佐賀中央支店



ブラックモンブラン カレーになりました



1969年の発売以来、ずっと九州の人々に愛され続けてきた竹下製菓のアイスクリーム「ブラックモンブラン」。
そのアイスクリームをイメージして、宮島醤油がカレーで表現しました。
白いご飯にカレーをかけ、ザクザク食感のクッキーランチがかかると、まるでバニラアイスチョコレートをコーティングしたような、カレー版ブラックモンブランの出来上がりです！
九州の老舗企業同士のコラボ商品、ぜひお楽しみください。



お求めはこちらのオンラインストアで！

Topics of the month

「くまもとの物産商談会2023」を開催しました!

2023年3月2日(木)、熊本城ホールにて熊本連携中枢都市圏の加工食品事業者、物産品事業者と全国のバイヤーを繋ぐ商談会を開催しました。

熊本市は、地場産品の知名度向上及び商品PRの場・機会の提供、販路拡大を図るため、熊本の素材を活かした加工食品、物産品の商談会を開催しました。

商談会では、熊本銀行とFFGビジネスコンサルティングが事務局として運営のサポートを行いました。

商談会は、大きく3つの形式で実施しました。【図】

①事業者様(以下、事業者)と全国のバイヤー様(以下、バイヤー)を繋ぐ個別商談会

②多様な経営課題の解決に向けた個別相談会

③各種セミナー

近年、コロナ禍の影響により、大規模なイベントはオンラインが主流となる中、ポストコロナを見据えてリアル(対面型)メインに一部オンラインを含めたハイブリッド形式で開催しました。また、今回の商談会に先立ち、2月8日(水)に参加事業者に向けて事前対策セミナーも開催しました。事前対策セミナーでは、バイヤー目線での商品開発・販路開拓に向けた戦略や、リアル・



商談会会場の様子



個別商談会の様子



セミナーの様子



野村頭取の挨拶



熊本市大西市長の挨拶

【図】商談会の内容



オンラインでの商談時のそれぞれの工夫など、参加事業者の商談力・成約率向上を図るためのサポートを行いました。

商談会は、主催の熊本市から市長大西^{おおにし かずみ}一史氏のビデオメッセージ、事務局を代表して熊本銀行野村頭取の挨拶で開会しました。個別商談会では、FFGビジネスコンサルティングが事前のアンケートをもとに、参加バイヤーと参加事業者のニーズを把握した上で商談相手を選定し、ミスマッチを抑え、双方が安心して商談に臨める環境を整えました。1商談25分という限られた時間の中で、参加事業者は自社の商品を持ち寄り、参加バイヤーに試食の提供・実演をしながら自社商品をアピールされていきました。

商談会に参加した事業者からは、商談成果に繋がっただけでなく、「様々な業界への価格設定や、流通などのアドバイスを受けることができ、今後の商品開発の参考にした」といった今後の事業成

長に繋がる貴重な経験になったという感想も頂きました。参加バイヤーからは、「熊本をはじめ九州の商材を使ったメーカーが多く、新たな商品を見つけることができ、自社の商品、販路拡大への熱意をもったメーカーと商談をすることができました」と感想が寄せられ、参加者の新しい発見・開拓が多く、今後の事業展開に活かすことができる商談会となったようです。

また、商談会後の3月8日(水)には、参加事業者に向けて商談会後対策セミナーを開催しました。『商談後、バイヤーとの交渉術!』というタイトルで行い、その後の商談で、成約に結び付けるためのノウハウ提供、アフターフォローに取り組んでいます。

今後もふくおかフィナンシャルグループは、今回の商談会のようにポストコロナを見据えた取り組みで、地域経済の活性化を目指した活動を継続してまいります。

地域とつながる FFG連携プロジェクト



私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、
観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。
今回は、熊本市における歴まち融資を活用した新たな拠点づくりの取組および、
長崎県東彼杵町と連携したビジネスプランコンテストの開催についてご紹介いたします。

歴まち融資を活用した熊本の“新たな拠点づくり”

熊本銀行は、熊本市との「歴史まちづくりに関する連携協定」に基づく取組の一環として2022年4月より「熊本市町屋等利活用資金（以下、「歴まち融資」）の取扱いを開始しました。

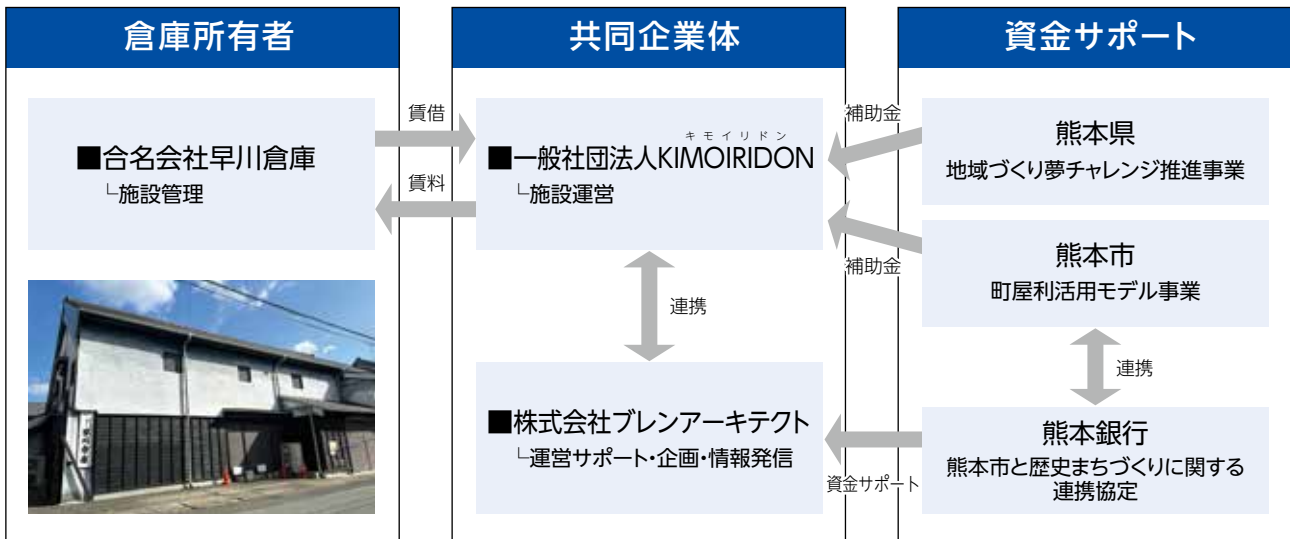
歴まち融資は熊本市の城下町地区および川尻地区における町屋等を活用し、歴史的町並みの維持・向上を通じて地域活性化や観光振興等に貢献する民間まちづくり事業者の資金需要に対応する融資商品です。

現在、歴まち融資の第一号案件として、熊本県・熊本市の補助金を活用し、熊本市の新町・古町地区における「新たな拠点づくり」が進んでいます。

新たな地域活性化の拠点となる「早川倉庫」は、熊本市の新町・古町地区に明治10年に建設された歴史ある木造建造物です。建築当初は岡崎酒類醸造所として赤酒・にごり酒の醸造所でした。岡崎酒類醸造所の創業者である岡崎唯雄氏は、熊本経済界の牽引者で、熊本商工会議所の初代会頭を務めたほか、「素心吟社」という名前で私塾を作り地元元若者に商業を教えていました。建物は、早川仁三郎氏が「早川商店」の社名で卸売業を始めた際に使用され、その子息健祐氏が太平洋戦争後の昭和29年に倉庫業を開業し現在に至ります。

この度、146年間継承されてきた早川倉庫2階の一部を利活用し、町屋等の歴史的資源の

事業実施体制図





保存・活用に関する活動を行う一般社団法人 KIMOIRIDON^{キモイリドン}と、地域課題を解決するための「しくみのデザイン」を行う株式会社ブレミアーキテクトがコンソーシアムを組み、ワーキングスペース事業を開始しました。岡崎唯雄氏への想いも馳せて「早川倉庫WORKING SPACE素心吟舎」として、今年4月にOPENを予定しています。

本施設は、今後の熊本を担う人々やベンチャー企業の育成を行うことを目的とし、学生や若手経営者たちの学びの場やビジネスにもつながる拠点として活用される予定です。新町・古町地区の地域課題の解決を目指す企業や個人が、共に協働意識を持ち、相互によろず支援を行えるようなコミュニティを形成していきます。

また、新町・古町地区は、先進的なまちづくりを行うため、さまざまな実証実験のフィールドとして活用されており、本施設を新町・古町地区の地域課題解決の実証実験の場として活用することで、地域にヒト・モノ・情報の流れを創出していきます。

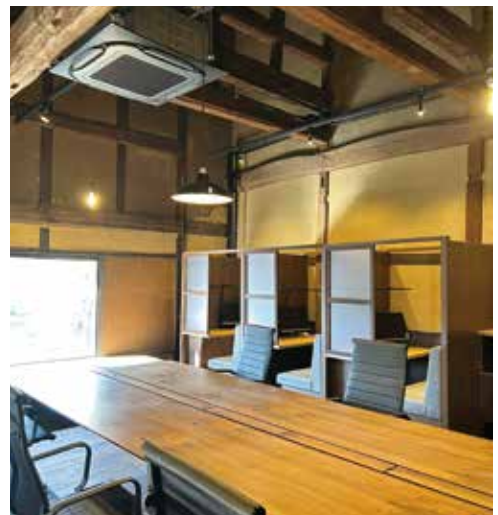
今後、熊本銀行は熊本市ならびに民間まちづくり事業者と連携して持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。



左からKIMOIRIDON代表理事早川祐三氏、ブレミアーキテクト代表取締役濱田智紀氏、KIMOIRIDON理事河野修治氏



窓や壁を活用したオープンスペース



146年間継承されてきた倉庫の梁などを活用しリフォーム



熊本銀行 ソリューション営業部 左から藤田・山下
【お問い合わせ】TEL (096) 385-1280



リフォーム前



リフォーム後

新！感！選！東彼杵町ビジネスプランコンテストの開催



東彼杵町の茶畑にてフィールドリサーチ参加者全員で記念写真

長崎県の中心部に位置する東彼杵町は、現在、人口流出に伴う地域の活力減退を課題として抱えており、町への移住や交流を通じた関係人口の増加や外部との効果的な連携による活力創出が求められています。

今回、十八親和銀行では、東彼杵町観光協会からビジネスプランコンテストの運営業務を受託し、町への効果波及・拡大に向けた「新！感！選！東彼杵町ビジネスプランコンテスト」を開催しました。西九州新幹線長崎ルートの開業を契機に「体験型観光」「地域資源の活用」「移動・交通」の3つをテーマに地域活性化に資するビジネスアイデアを募集しました。

2022年9月15日より約1ヶ月間参加者募集を行い、小学生・高校生・大学生・社会人の24チーム（64名）の応募を受付、11月7日には町内の名所を訪問し、人口・産業・特産品・移住者などをヒアリングするフィールドリサーチを実施。11月13日、12月11日にはアイデア発想法からペルソナ設定、リーディングパス作成までの講義を行う教育プログラムを提供しました。最終的には17チームからビジネスプランの応募があり、書類審査にて予選会を実施。事務局での厳正なる審査のもと決勝進出の11チームを決定しました。

その後、2023年1月29日に東彼杵町総合会



チラシ イラストレーション:山下アキ



十八親和銀行新入行員もコンテスト決勝出場

館で「新！感！選！東彼杵町ビジネスプランコンテスト」を開催し、決勝に進出した11チームと特別参加の小学生2チームがアイデアを熱弁しました。

その結果、「ふたつ星ウェルカムツアー」を提案した、新崎聖さんがグランプリを獲得。波静かな大村湾を東彼杵町の名物であるクジラを模したカヤックで移動し、そのぎ茶を味わいながら、JR千綿駅に週4回停まる観光列車「ふたつ星」を迎えるとい



第1位グランプリ 新崎 聖様



左からチーム波佐見焼様、チーム波佐見っ子様

う、列車の乗客と参加者の双方に非日常の体験を提供するプランで、見たことのない海からの景色を楽しむ逆転の発想が評価を集めました。

今後も十八親和銀行は、アントレプレナーシップ人材発掘・育成、スタートアップ創出、お取引先の新事業、地域の新産業創出等、スタートアップエコシステムの構築を強化していくためにビジネスプランコンテストを積極的に開催していきます。



コンテスト決勝出場者の皆様と集合写真

FFGは地域が抱える課題解決や 地域経済の活性化に取り組んでいます

FFG地方創生の
取組事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

bank baton



地方創生に関するお悩みをご相談ください

- 観光振興
- まちづくり
- 産業振興
- エネルギー
- 教育文化芸術
- ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】 TEL (092) 723-2254



(左)十八親和銀行地域振興部 兼iBankマーケティング 長尾
(右)十八親和銀行地域振興部 寺田

【お問い合わせ】 TEL (095) 895-6251

福岡銀行が第4回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」にて「銅賞」を受賞

2023年2・3月号の
記事はこちら



福岡銀行では、2023年2月、環境省が主催する第4回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン※」（以下、本件）の間接金融部門において、「銅賞」を受賞しました。

福岡銀行が受賞した「間接金融部門」は、金融面や非金融面の取り組みを通じて、ESG要素を踏まえたお客様の価値向上や産業の競争力強化、地域活性化にポジティブな影響を創出することを表彰するものです。

本件の受賞にあたっては、「地元九州大学や自行グループ会社との連携によって独自のSDGs評価モデル（Sustainable Scale Index＝以下、SSI）を開発し、取引先の行動変容を促すとともに自行の事業機会を追求する姿勢や今後、地域課題を踏まえた銀行としてのインパクト戦略の全体像が示されるとともに、さらなる取引先へのエンゲージメントの成果を出すことへの期待」などを環境省から評価して頂いた形となります。



オンライン表彰式の様子（行の中心、上段2段目 福岡銀行平田常務執行役員）

「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」
環境省においてESG金融の普及・拡大に向けて創設企業などのビジネスモデルを持続可能なものへと移行することを支え、環境・社会・経済に対してインパクトを与える取組やサステナブルファイナンスの拡大を促進する投資家、金融機関、金融サービス事業者及びそれら資金を活用する資金調達者について、その総合的に優れた組織や先進的な取組、他の模範となるような取組などを表彰

・広く社会で共有することにより、ESG金融の更なる普及・拡大とその質の向上につなげることを目的とするもの。

（※ESGとは、環境（E: Environment）、社会（S: Social）、ガバナンス（G: Governance）の英語の頭文字を合わせた言葉）

FFGでは、2020年8月、「地域経済発展への貢献」と「FFG企業価値の向上」の好循環サイクルを創出し、持続可能な地域社会の実現に貢献すること」をサステナビリティ方針として制定しました。2021年には具体的な取り組みを進めるにあたり、10月にサステナブルファイナンス目標を設定し、同11月にはSDGs/ESGの対話・可視化を目的としたSSIを導入するなど、お客様の社会課題解決・中長期的な成長をサポートしております。

具体的なステップとして、SSIを活用した相互理解や対話（エンゲージメント）を深める中で、優先課題の解決に向けた多様なソリューションをご提案し、「新たなビジネス機会の創出」や「社会へのインパクト提供」につながられるよう尽力していきます。

今後もFFGは、グループ一体となって、「あなたのいちばんに。」をスローガンに、お客様のサステナビリティ経営の実現に向けた取り組みを積極的に支援してまいります。



表彰状を掲げる福岡銀行平田常務執行役員



「Sustainable Scale Index」の導入ならびに普及に向けた取り組み

地域企業との対話機会を増やし、SDGs/ESGの切り口から、幅広いテーマを取り上げることで、地域企業の持続成長に向けた支援につなげていきます。

SDGs/ESG活動の確認

SDGs/ESGスコアリングモデルサービス 「Sustainable Scale Index」

- 約200の評価項目に回答することで、自社のSDGs・ESGへの取組みを指標化・可視化
- 業種別に評価されるため、業界平均と自社の数値を比較することで、立ち位置を把握
- 上場・非上場を問わないスコアリングモデルを構築し、多くのお客さまに活用いただける指標
- 九州大学と協業による独自の評価システムの構築

SDGs/ESGへの理解

評価結果による銀行との対話
(エンゲージメント)

多様な
ソリューション提案

優先課題の特定・対応策検討

✓ファイナンス

目標設定・経営計画への導入

✓ビジネスマッチング
✓コンサルティング

社会への
インパクト提供

新たなビジネス
機会の創出

vol.25

START UP Company

今月の注目スタートアップ

ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社 FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。



LAYERED

LAYERED かかりつけ医の3つの機能とレイヤードの製品



#医療DXにてかかりつけ医を推進する

株式会社レイヤードは、「医療をもっと、わかりやすく」をPurposeに掲げ、かかりつけ医の医療DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するSaaSプロダクトを複数展開しています。WEB問診Symview^{シムビュー}、電話自動応答システムIvber^{アイバー}、クリニック向け動画サービスMedicaster^{メディカスター}など、2,500施設以上の医療機関で利用いただいています。2022年7月には慢性疾患患者のフォローアップと治療の離脱防止を目的としたPRMツール(医療版CRM)Kakarite^{カカリテ}をリリース。各種システムを通じて、医療者と患者双方の診療体験をスムーズにし、両者の円滑なコミュニケーションと医療現場・医療者の業務効率化の実現を目指します。

重症化予防の力を握る「かかりつけ医」の推進には医療DXが必要不可欠

2021年度の日本の医療費は、過去最高の44兆円となりました。また、コロナ禍では様々な医療情報を一か所に蓄積するかかりつけ医の重要性が改めて認識さ

れました。このような背景から、政府も本格的に医療DXの推進やかかりつけ医の機能強化を打ち出し、重症化予防に向けた動きが活発化しています。一方で、クリニックの現場の医師は多忙を極めており、かかりつけ医が患者の重症化予防などに積極的に関与していく時間が取れないという問題もあります。患者教育や生活習慣改善の指導を行っていくためには、医療現場の業務を圧倒的に効率化し、患者とのコミュニケーション機会を創出していく仕掛けが必要です。これが、単なるデジタル化にとどまらない、医療DXです。

レイヤードが目指す医療DXは医療者・生活者双方の診療体験の向上を実現

WEB問診Symviewは、来院前に患者が自分のスマートフォンを利用して症状を入力します。症状等の入力内容によってさらに深い質問が出現すること、また自宅で落ち着いて回答できることで、紙の問診と比べて詳細な問診を収集することが可能です。クリニックでは、詳細な問診を患者が来院する前に確認できることから、事前に必要な検査やカルテの準備ができるようになります。これにより患者の待ち時間が短縮されます。診察室では、電子カルテの入力が省力化できる分、医師は患者とのコミュニケーションに

集中できるようになります。さらに、PRMツールKakariteは、Symviewで収集した問診データはもちろん、レセプトデータ等の患者情報を一元管理し、患者属性に合わせたフォローアップを自動化できる仕組みをつくっています。これにより、医療者の業務効率化を実現しながら、院内・院外双方で患者とのコミュニケーションの機会を増やしていくことに貢献します。

データを活用した医療提供を目指して

WEB問診Symviewをはじめ、レイヤードのプロダクトは、地方自治体や全国の医師会などでの利用も広がっています。このように公的機関も含めて、医療者と生活者・患者の情報をつなぐことで、病診連携やかかりつけ医と専門医との連携、地域包括ケアでの活用など、データドリブンの医療を推進し、医療の質の向上を目指してまいります。



会社概要

株式会社レイヤード

代表取締役社長 毛塚 牧人

所在地 福岡市博多区
博多駅中央街8-27
第16岡部ビル 5F

ホームページ <https://layered.inc/>



お取引先の社会貢献活動を
紹介するコーナーです

われら
社会貢献
企業

東日本大震災以後、毎年、震災遺児・孤児のために
義援金を送り続けられています

株式会社ニシイ

プロジェクト活動実績

2011年4月より活動を開始。
東日本大震災発生時、0歳だった
赤ちゃんが二十歳になるまで
続けます。



期間中の対象商品の売上金の一部を、下記の団体
に対し各県の震災孤児・遺児数に比例して義援金
を寄付させていただいております。

- 東日本震災みやぎこども育英募金
※宮城県の震災遺児・孤児数：462人（2021年10月時点）
- いわての学び希望基金
※岩手県の震災遺児・孤児数：250人（2021年10月時点）
- 東日本大震災ふくしまこども寄附金
※福島県の震災遺児・孤児数：92人（2021年10月時点）

義援金寄付実績

2011年度	1,391,476円
2012年度	1,535,954円
2013年度	1,932,282円
2014年度	1,801,342円
2015年度	1,409,753円
2016年度	1,404,887円
2017年度	1,490,949円
2018年度	1,330,039円
2019年度	1,070,999円
2020年度	800,840円
2021年度	1,807,890円

日本屈指の塗料販売会社、株式会社ニシイ。

福岡市博多区に本社を構える同社は、1929年（昭和4年）に九州初の塗料専門販売店として創業してから約94年、一缶の塗料は、鉛筆からビル、さらにロケットの塗装までをカバーする品揃えとなり、一本の刷毛、塗装機器はもとより設備設計とメンテナンスが可能になりました。また、自動車産業では部品塗装や特殊治具の製造、造船・産業分野では特殊塗装設備、建築土木分野では最新工法のサポートや防水工事など、事業分野は今も広がっています。

最先端の塗料とは

塗料とイメージするのはペンキやラッカーですが、そうした従来型のイメージでは括れないほど進化・多機能化しているのが最先端の塗料の世界です。単に表面に色を付けるだけでなく、建物内部の湿気を逃がし外からの雨水を遮断して建物の耐久性を高める外壁用塗料、太陽の光で

汚れを分解する光触媒塗料、電気製品から放出される電磁波をカットする電磁波シールド塗料、タバコやペットの臭いを寄せつけない防臭性塗料、熱帯地域でのマラリア、デング熱、ジカ熱予防に効果を発揮する防蚊塗料、塗布後瞬間に急速硬化し「爆弾テロから兵士を護る」ほど強靱な強度を発揮する被膜塗料など、さまざまな機能を擁した塗料が私たちの生活を支えてくれています。

私たちの身の回りに多くの実績

福岡PayPayドームでは建設時に常に潮風にさらされる立地条件を考慮して塩害を防ぐ塗料が使われ、福岡タワーやキャナルシティ博多、福岡都市高速、JR九州の新型車両にも同社が納入した塗料が用いられています。自動車メーカー、なかでも日産自動車九州工場とは40年以上のお取引引きがあり、塗装ラインの管理業務も担っています。単なる塗装材料の販売に留まらず、時代の変化とともに新たな機能の開

発や課題に真つ向から取り組む、そんな挑戦の繰り返しが生んだ誇りある実績から「日本のモノづくりを支えてきた」といえるのではないのでしょうか。

学びの希望基金プロジェクト

2011年3月の東日本大震災で多くの子どもたちが親を亡くしました。そんな子どもたちの暮らしや学びを支援したいと、同社は震災直後から遮熱・断熱塗料の販売や施工等による売上金の一部を「学びの希望基金プロジェクト」と称して義援金として寄附することを続けています。このプロジェクトは震災遺児・孤児すべてが20歳になる2031年まで塗料メーカーの協賛のもと継続していくそうです。「東日本震災みやぎこども育英基金」「いわての学び希望基金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を通してこれまで2011年度から2021年度までの10年間で累計15,976,411円を寄附されました。これからも株式会社ニシイは、環境に配慮した製品や技術(工法)・サービスの提供を通じて、SDGsが示す社会課題の解決に取り組まれます。

株式会社ニシイが取り組むSDGs



- 熱や紫外線を遮る効果に優れた遮熱・断熱塗料の普及促進により、省エネルギーとヒートアイランド現象の抑制に取り組めます
- 太陽光や風雨などで傷みにくく、汚れにも強い塗料の普及促進と、下地の補修など適切な工事方法の提案で、建物の美観の維持と補強(長寿命化)に取り組めます

- 有害な化学物質を含まず、抗菌・抗ウイルス・空気浄化機能など健康にも配慮した、人にやさしい塗料を積極的に提案します
- 省エネ機器の販売やエアーコンプレッサー等の工場設備のメンテナンスサービスを通じて、モノづくりの効率化と、電力使用量やCO₂排出量の削減に取り組めます

- 「学びの希望基金プロジェクト」を通じ、東日本大震災で親を亡くした子どもたちの暮らしと学びを支援します
- メーカー各社と連携し、機能性塗料やSDGsに貢献できる製品・技術をより多くの人に知ってもらえるように、積極的な情報発信や提案活動を行います



企業概要 株式会社ニシイ

本社所在地 福岡市博多区東比恵3丁目4番6号

代表 代表取締役社長 西井一史

創業 1929年(昭和4年)5月

設立 1947年(昭和22年)12月

資本金 4,800万円

従業員数 280名


事業内容 塗料全般、塗装機器、塗装設備、接着剤、建材、防水シーリング剤、金属表面処理剤の各種販売、色彩設計、塗装防水工事

ホームページ <https://nishii.co.jp/>

取引店 福岡銀行本店営業部

株式会社ニシイ
ホームページ





FFG ビジネス
コンサルティングの
釣道
ちょっと
つりみち
[壱岐島 月光の巨アジ編]
Vol.18

連載2周年記念

月灯りに照らされて

「天の原ふりさけみれば 春日なる三笠の山に出でし月かも」……この句も浮かぶ、とある月食の夜。そんな郷愁をもあまねく照らす青い月明かりにもの想う。季節風が吹き荒れ動力も無い時代に対馬海峡を越えようとした歴史の主人公に尊崇を。遣唐使、安倍仲麻呂や吉備真備らは闇夜を青く照らすこの月にどんな想いを馳せたのか。この青く照らされた月下に浮かぶ安定した島影は、遣唐使や防人の時代のさらに昔からも、大陸との海の交通の要衝として行き交う人々にどれだけ安堵や希望を与えてくれたことか。僅か20km程度の壱岐水道でも、沖合いでは島影はほとんど見えなくなることもあります。現在でさえそれ。そんな時、高度な航海技術も動力源もない時代、風力と潮流、人力を頼りに、この荒海を渡りきった人々の信念と胆力と勇気と探究心は、いかばかりであったろうか。

長崎県壱岐市のいきのしま。弊社はこの島の特徴を活かした地域振興の様々な案件をお預かりしています。晩秋の大潮、満月の青く輝く光は暗い海峡を煌々と照らし山肌を浮び上らせ、綾なす森の中にも降り注ぐ。永い歴史が刻まれ未来に向かつていく中、この月は変わらずまたの人々や営みを照らしてくれたのでしよう。対馬海流がぶつかり、季節風が吹きつけるこの壱岐島は多種多様な魚



その後、私もデカイのやつつけとききました(笑)



吉岐の朝焼け。巨大アジの饗宴の終わり



朝霧に煙る港



毒がコワイミノカサゴ



ヒレがボロボロの巨大な回遊アジ

を育み釣り人の聖地と言われています。そして季節にもよりますが、50cmを越える巨大なアジが大挙して押し寄せ、それを狙い撃てる場所があります。

雲ひとつない夜空を照らす満月が、数十年に一度の月食で欠けた夜。筆者はその島に向うフェリーに乗りこみました。その場所に、巨大なアジの群れが回遊してくるタイミングは、朝日が出る前と夕陽が沈む前の僅かな時間。その瞬間を狙うために全国からこの島には釣り人が押し寄せます。でも大自然が相手の釣り、実際には回遊してこないこともままあります。そこには灯りも無く、暗夜の中釣り人は、巨大アジが来るか来ないか運を天に預け竿を振り続けるのです。そして回遊があった場合でも、巨大化したアジはなかなか針をかけることができず、よしんばかけたとしても、強烈な暴れ方で針を外されたり、糸を引きちぎられたりします。獲れなかったとしてもその時の体験は釣り人を魅了してやみません。ふと思えば今日は大潮で満月。この強烈な月明かりはアジの回遊を妨げます。

たまたま釣り場に立てたその時間は午前4時半。潮が一番引いた時間帯の潮どまりに近く魚の気配は皆無です。諦めかけたその時、同行者が持つ竿に僅かな反応がありました。竿を立て魚の反応を見るとそれは一気に走り出します。それは恐らく手前側に走ってきたの

か、始めはそんなに大きいとは思えませんでした。近くまで寄せて初めてそれは目覚めたように強烈な抵抗を見せ、手前に潜ろうとします。夜空が白み始める5時半頃それは網の中に入りました。40cmを超えるマアジ。最大クラスではないですがそれでも目の当たりにすると「これがアジなのー」と驚嘆します。釣った本人は横たわるアジの大きさに声もでません。その引き締まった魚体の鱗々は長い海中の旅でボロボロです。我々も日々の生活に終われ、家族を養い社会の一員として生きています。このアジも自然界に生まれ落ち、外敵の脅威を避け、この大きさになるまで広い海の中を頑張つて泳ぎ回り、命をつなぎ生きてきたのでしょうか。そんな相手に畏敬の念すら感じます。今回、幸運は同行者に微笑み筆者には釣れませんでしたが、これでいいんだ。この地で、太古から希望を照らしてきた月明かりに包まれ、時に気まぐれな海に挑める時間を持つことが至福。魚との闘いを終えても体は火照ったまま。陽が昇り始め山の稜線がくっきりと浮かび始める時、北西の風が頬を冷やす。この風はこのまま、わたしの住む博多の方へ吹いていくのだろう。このひと時が久遠に続けばいいなあ。そんなことを思いふと我に帰る。

この吉岐島の素晴らしさを発信していくことに協力できればと心に刻みながら。

九州の星
Star of Kyushu

| 81 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです

現役引退しても
九州でアイスホッケーへの
情熱を灯しつづけたい！



令和4年度国民体育大会 九州ブロックアイスホッケー審判委員長



銀行員とアイスホッケー審判の二刀流

幼少期からフィギュアスケートの教室に通い銀盤に慣れ親しんだ川崎誠也さん。福岡大学在学中にアイスホッケーと出会い、そのカッコよさに憧れ、迷わずアイスホッケー部に入部しました。

以来約20年、現役選手として活躍したのち、35歳を区切りに現役を引退しました。競技においてはまだ限界を感じていなかったものの、当時の勤務地だった鹿児島に練習会場がなく、練習のために毎週福岡との往復の移動に疲弊してしまつたそうです。

競技生活にピリオドをうつたわけですが、アイスホッケーへの情熱は何年たつても冷めやらず、この温暖な九州で競技審

判というかたちで引き続きアイスホッケーにかかわっていくことを決意しました。

審判転向後10年を経過した令和4年度国体の九州ブロック大会では審判委員長を務め、九州各県の選抜チーム同士の熱い戦いを主審としてジャッジしています。

「アイスホッケーの魅力を九州でもより多くの方々に感じてもらいたい」と話す川崎さん。

年々アイススケート場が減少し、練習場の確保すら難しい問題に直面しています。それでもパックの奪い合いで選手同士が壁にぶつかる音や振動、銀盤をスティックで叩いてパスを呼ぶ音、華麗なターンやパス回しで相手ディフェンスを翻弄する姿を見てほしい。

これから多くの方が試合を観戦し、自分もやりたいと思う子どもたちが増えることを願いつつ、川崎さんは今日もホッケーを吹きます。

川崎 誠也

KAWASAKI SEIYA

Age45

熊本銀行久留米支店副支店長



▲勤務中の川崎さん

掴みたい、未来が有る

百花繚乱の女子ゴルフ界 逸材揃いの「プラチナ世代」

現在の国内女子プロゴルファーを席巻しているのは1998年度生まれの「黄金世代」と呼ばれる選手たち。そして、それに続くのが2000年度生まれの「プラチナ世代」といわれている。今回登場の後藤未有選手も「プラチナ世代」注目の一人。

明るく元気な印象の後藤選手は福岡県北九州市生まれで、両親と14歳差の姉と11歳差の兄の5人家族。

ゴルフとの出会いは4歳の時、小児喘息で入院し病院のベッドでテレビCMに出演する宮里藍さんを見て、「宮里藍ちゃんみたいなプロゴルファーになりたい」と憧れを持ったことに始まる。ゴルフは仕事の付き合いで父親がするくらいで縁遠かったが、退院祝いに両親はジュニア用のクラブをプレゼントしてくれた。

「公園でスポンジボールを使ってゴルフ

の真似事をして遊んでいたら、大人から上手だと褒められて嬉しかったです」

愛娘の楽しそうな姿を見て、両親はゴルフ練習場のジュニアスクールに通わせた。小さい手と体でクラブを握ると、自然とテンフィンガーになる。スクールの先生からテンフィンガーの指導者で時松隆光プロの師匠・篠塚武久先生を紹介され、5歳から篠塚先生の二元で習うことになった。北九州市から福岡市へ週2回、両親が車で送り迎えしてくれた。

小学生から試合に出て頭角を現し始め、「勝つことが嬉しい」「褒められると嬉しい」から、次第に「プロゴルファーになりたい」「賞金を稼ぎたい」と目標が明確になってきた。

小学5年生の時、家族で北九州市から福岡市へ引越した。後藤選手が中学からゴルフ部のある沖学園に入ること、篠塚先生の練習に通いやすい環境を考えると、両親が決断したのだ。

同年、地元のテレビ番組でジュニアス



GOLF MEGA STAR

ゴルフ界で輝く新星を紹介するコーナーです

vol.6

プロゴルファー

後藤 未有

GOTO MIYU
Profile

名前は「みゆ」でも「みう」でもなく「みゆう」。2000年9月29日生まれの22歳。B型。福岡県北九州市出身。沖学園高等学校卒業。身長157センチ。アマチュア時代から数々のタイトルを獲得。2021年のステップ・アップ・ツアーでプロ初優勝を飾る。国内女子プロゴルフツアー2023年シーズンのシード選手。

リートを応援する企画があり、宮里藍選手に憧れていることを語ると、サプライズで当時アメリカにいた宮里藍さんからメッセージをもらった。その時、記念にもらったキャップに書かれた言葉「夢を諦めない強さを!!」「人に流されず自分をしっかりと持つこと」は、今も心に刻まれている。

中学から沖学園に進学 アマチュア時代の活躍

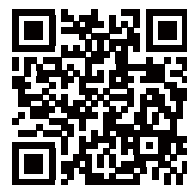
中学からゴルフの名門・沖学園(福岡

市博多区)に入学。勉学に励みながらゴルフ部の仲間と目標に向かって切磋琢磨する日々が始まる。

高校3年生で「日本女子オープンゴルフ選手権」8位タイでローアマチュアに輝いた。

「日本女子オープン前、日本代表の派遣試合がスコットランドであり、強風と寒さで首を痛めてしまった。首の痛みで練習も満足にできませんでしたが、あの時は痛みで邪念なく打っていたから最終的にローアマチュアになれた気がします」

Instagram



みなさんの応援が 力になっています



プロテストで涙を呑むが 経験と応援をバネに躍進！

高校卒業後の2019年にはナショナルチームに選抜され、海外試合や代表合宿を経験して一回り大きくなった。

満を持して受けたプロテストは合格ラインに1打届かず苦杯をなめた。一年に一度しか開催されないプロテストは、合格率4%以下、上位20位タイしか受からない超難関の狭き門。

「たくさん練習してきたので『何で？ありえない…』って茫然としました。人前で泣いたり、弱いところを見せるのが嫌だったので、泣かずに帰りましたが、その時はまだ現実を受け入れられませんでした」

幸運にも合格ラインから2打差以内は単年登録者(1年限定のプロ資格だが現在は制度変更により廃止)でQ.Tに出場することができ、ランキング17位の好成績をおさめて2022年の女子プロツアー前半戦の出場資格を得た。コロナ禍で試合の延期や中止が相次いで大変な時期であったが、プロテストは2度目の挑戦でついに合格を果たした。

2022年は首位発進の試合や3位争いなどする場面もあり、最終的には獲得賞金34位、メルセデス・ランキング37位で2023年のツアーシード権を射止めた。

今年プロ4年目で、さらなる活躍

が期待される。

「プロになっての楽しさはギャラリーの皆さんの前でプレーすること。自分のプレーで一喜一憂し、感動したり、観に来て良かったと言われるとゴルフをやっていて良かったと心から思います。調子が悪い日があっても応援してくださる方に適当なプレーは見せれないので、全力でプレーして最後の最後まで諦めません」

今シーズンの目標は ツアーで優勝すること！

今シーズンの目標を尋ねると、「ツアーで初優勝する！複数回優勝する！メルセデス・ランキング5位以内に入る！」と力強い声で答えてくれた。なぜ賞金ランキングではなくメルセデス・ランキングなのかを問うと、「メルセデス・ランキングはポイント制なのでコンスタントに出場し勝っていないと上位にいけないからです」と話す。

地元開催の試合は、応援してくれる人が多く、励みになるという。

「試合中、博多弁で『頑張れー』

よ！』『応援しとーよ！』って声援をもらうと力が湧いてきます。福岡県の選手といえば後藤未有といわれるくらいになりたい。これからも応援よろしくお願い致します！」

取材協力

福岡カンツリー倶楽部 和白コース

■住所：福岡市東区大字
上和白1318-1
■電話：092-606-2931



国内女子プロゴルフツアー開催

5月12日(金)～14日(日)「RKB×三井松島レディス」



後藤 未有プロの トリセツ

Q.ドライバー平均飛距離は？

240ヤード

Q.ベストスコアは？

63(エリエールゴルフクラブ松山)

Q.得意なクラブは？

9番アイアン



クラブは
HONMAと契約。
「ちゃんみゆ」の
刻印入り

Q.目標とするプロゴルファーは？

宮里藍さん。5歳からずっと変わりません！

Q.好きな音楽は？

最近はSaucy Dog(サウシードッグ)。試合前はサンボマスターの「できっこないを やらなくちゃ」を聴いて気合を入れています！

Q.好きなドラマは？

韓国ドラマが好き。同じ趣味の姉と一緒に韓国旅行したいのですが、コロナ禍になってまだ実現できていません(泣)

Q.好きな食べ物は？

ラウンド間ではカリカリウメ、梅味の飴やグミ、梅昆布など、梅味のものが欠かせません。

Q.ツアー中の食事は？

連戦になるとホテルからホテルへの移動が続き、外食が中心になるので、なるべく定食を食べるようにしています。外食ばかりだと栄養が気になるのでウィークリーマンションを借りて自炊することもあります

Q.好きな色は？

小さい頃、母親からピンクの服をたくさん着せられたせいか、大人になってからは黄色やオレンジなどのビタミンカラーが好き

Q.もらって嬉しい声援は？

声を掛けてもらえるだけで嬉しいです！

Q.休日の過ごし方は？

ネイルや美容室

Q.もらってうれしいプレゼントは？

タオル、トイレトーパー、ティッシュなどの生活用品。ツアー中は買いに行く暇がなくて(泣)。アクセサリはもらうより自分で買う方が好き。「次に頑張ったらこれを買おう！」というモチベーションにもなります

Q.長所は？

元気で明るいところ

Q.ストレス解消法は？

そもそもストレスがありません(笑)。何かあっても「ま、いっか」で引きずらないタイプ

Q.好きな言葉は？

勇往邁進

意味は目標に向かってわきめもふらず勇ましく前進すること。今の自分の気持ちにぴったりの言葉です



長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、一般社団法人 山と海の郷さいかい 代表理事 橋本 ゆうき様から「『誰もが自分らしく、すこやかにいきいきと在る世界』を目指して」と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。





「誰もが自分らしく、すこやかに いきいきと在る世界」を目指して

寄稿 橋本 ゆうき

はじめに

はじめまして、橋本ゆうきと申します。長崎市出身、2018年より西海市へ移住し、現在は(一社)山と海の郷さいかいの代表として、地域の皆さんと共に「農林漁業体験民宿(体験民泊)」事業に取り組んでいます。西海市へ移り住む以前は、地元タウン誌の編集長をしており、「雑誌」という媒体を通して、地域の魅力やローカルな暮らしの楽しさを発信してきました。しかし「百聞は一見に如かず」、現在は「体験民泊」を通して、自然と共にある西海市の暮らしの魅力や豊かさを、お客様に自分自身の五感を使って感じていただく……そんな機会を提供しています。今回は体験民泊に取り組む意義や、地域における体験民泊の可能性について、お話させていただきます。

西海市で出会った 理想の暮らしと、 それを伝える体験民泊

そもそも、私がいわゆる「田舎」や「地方」と呼ばれる「小さなコミュニティ」での暮らし、グローバルゼーションに対する「ローカリゼーション」といったキーワードに関心を持つようになったのは、大学時代、ニュージーランドに短期留学をしたことがきっかけでした。国で一番のメインストリートのお店が夕方5時には閉まり、人々が家族や友人と過ごす時間や、自然



Profile

一般社団法人 山と海の郷さいかい
はしもと
代表理事 橋本 ゆうき



1988年長崎市生まれ。富山大学芸術文化学部にて、伝統工芸やクラフトデザインについて学ぶ。在学中、ニュージーランドへ短期留学したことを契機に、ローカリゼーションやまちづくり、コミュニティデザインといった分野に関心を持つように。2011年、(株)ながさきプレスへ入社。2015年より同誌編集長を務め、タウン誌という媒体を通し、まちづくりや地域固有の魅力の再発見・編集・発信に取り組む。2018年、地域おこし協力隊として西海市へ移住。地域の皆さんと共に農林漁業体験民宿事業に取り組み、2020年より(一社)山と海の郷さいかいの代表理事を務める。

<https://yamatomumi.com>

の中で過ごす時間を大切にしたいのか」を見て、「自分はどうか生きたいのか」「どんな時間を幸せと感じるのか」「本当の豊かさとは何か」と、思いをめぐらせたものです。

以来、「誰もが自分らしく、すこやかにいきいきと在る世界」を目指して、働き方・暮らし方の多様性や、人とのつながりが感じられる小さな地域コミュニティでの営みや文化などを大切にしながら、タウン誌の編集など、さまざまな活動を行なってきました。

そんななかでめぐりあった土地こそ、今、私が暮らす西海市です。



地産地消や物々交換が当たり前のこの土地で、農業体験や食の体験を通じ、この土地の暮らしの魅力を伝えていきたいという想いに深く共感した。



2016年、西海市移住前に制作した農林漁業体験民宿事業の最初のパンフレット。

現在、代表を務めている体験民泊のパンフレット制作をご依頼いただいたことが、ご縁のはじまり。取材のために西海市を訪れ、農家や漁家の皆さんに出会った私は、「こんなところに、自分の求めていた暮らしがあった！」と心から感動しました。西海市はひと昔前まで、陸の孤島と呼ばれた僻地。市内に高速道路や鉄道は通っておらず、西海橋や大島大橋が架かっている今でさえ、交通の便は決して良くありません。しかし、その不便さゆえに、今なお昔ながらの暮らしの知恵や伝統的な食文化が息づき、半自給自足的な生活が残っていたのです。

そんな西海市の暮らしの魅力を、体験民泊を通して、子どもたちや都市で暮らす人々に体感してほしい——地元有志の皆さんの熱い志に、私は深く共感しました。それまでペーパーや雑誌という「紙媒体」を通じてアクションを続けてきた私ですが、「体験」という手段でダイレクトに想いを伝えられることに、ワクワクした

のです。そうして私は、2018年に西海市へ移住。地域おこし協力隊として、地域の皆さんと一緒に体験民泊事業を推進していくことを決意しました。

ローカリゼーションと地域コミュニティ

現在は一般社団法人となった私たちの団体「山と海の郷さいかい」ですが、私が関わり始めた2016年当初は、まだ立ち上がったばかりの任意団体に過ぎず、市内の民泊家庭も10軒ほどでした。そもそも「農林漁業体験民宿」とは2005年、農林水産省が都市と農村の交流を図るために、「農林漁業体験や交流を提供すること」を条件として、一般家庭でも旅館業法簡易宿所の許可を受けられるよう規制緩和した制度であり、大分県の安心院地域などが先進地として知られています。

西海市は、合併前の旧西海町でグリーン・ツーリズム活動が盛んだった

ことから、長崎県で最初に体験民泊に取り組み始めましたが、合併後は足並みが揃わず、活動は10年以上、下火となっていました。そんな現状を打破すべく、「もう一度頑張ってみよう！」と声を上げたのが、パンフレット制作を依頼してくださった有志の皆さんだったのです。

活動を共にするようになって目にしてきた皆さんの暮らしは、皆さんにとっては「当たり前」、しかし私にとってはすべてが「新鮮」な暮らしでした。私は西海市に来て、お米やみかんを買ったことがありません。皆さんが「食べんね〜」と分けてくださるからです。「このお米はあのおじちゃん、味噌汁の味噌はあのおばちゃんだし、わかめはあのおばちゃん、煮付けのアラカブもさっきいただいたし……わっ、この漬物も」と、食卓の料理のすべてが、土地のものやおすそわけで完結していることもしばしばです。

最初はこうしたおすそわけや、地域の人々の優しさを、どこかプレッ



おすそわけは日常茶飯事で、いつのまにか冷蔵庫が大き(笑)。日々、地域の皆さんとのつながりを感じる。

シャーに感じることもありました。都市での消費的な暮らし、等価交換に慣れ親しんでいる私は、「もらったら返さなければ」と無意識に感じていたからです。しかし「等価のお返しをする」ということは、その都度、「相手との貸し借りをフラットに精算する」ということ。あえて貸し借りをつくっておくことが、コミュニティの人々の間にゆるやかなつながりや関係性を担保しているのだと気がついてからは、自然と共にある、しかし常

に自然の脅威とも隣り合わせのこの土地における、支え合いや助け合いの知恵なのだと感じるようになりました。

そんな地域コミュニティを、煩わしい、面倒だ、と捉える人も多いでしょう。かくいう私も、時にはこのつながりの深さを重荷に感じることもありまます。移住者やよそ者であればなおさら、こうした狭く親密な地域コミュニティにうまく馴染めないこともあるかもしれません。しかし、「いつも見られている」と感じるか、「見守られている」と感じるかは自分次第。台風や豪雨で家の周りに被害が出た時、何も言わずともパツと駆けつけてくれる皆さんの優しさやたくましさにはやはり感動しますし、「ついでだから」と我が家の周りの草刈りまでしてくださるときには、感謝で胸がいっぱいになります。

自分一人の幸福ではなく、いつも周囲の人々や環境にまで気を配る。結局はそのことが、同じコミュニティの中で生きる自分自身の幸福にもつ

ながる。「情けは人の為ならず」を体現するかのように、くるくると、皆さんの優しさや思いやりがコミュニティの中で循環する様子は、まさにローカリゼーション的だな、と感じます。

生き方、暮らし方の

選択肢を広げてくれる

「体験民泊」

「田舎へ泊まろう」さながら、実際に地域の一般家庭に宿泊して食事や体験を共にする体験民泊では、こうした地域コミュニティならではの営みを肌で感じるができます。あれも持って行け、これも持って行けと、おみやげでいっぱいのお抱えで帰るとき、損得を度外視した地域の皆さんの優しさやあたたかさ、贈与的な営みに心打たれるはずですよ。

それだけではありません。「晩御飯のおかずのなかね」と言いながら釣竿片手に海へ行き、「ちよつと緑の足りんね」と言いながら畑へひとつぱしりする、そんな皆さんの暮らしを

見ると、食べ物は「買う」ことが当たり前だと思っていたのに、「採る」だの「獲る」だの「作る」だの、といった選択肢もあるのだと、なんだかハッとさせられるのです。

あるいは、電気、ガス、水道が止まった時……。薪で湯を沸かし、山や海から食べ物を得る術を知る民泊のお父さんお母さんなら、しばらくは生きていけるでしょう。もちろん、皆さんも普段は文明の利器(?)を使って生活しており、家に大きなテレビもあれば、スマホだって使いこなしています(笑)。一方で、昔ながらの生きる知恵もあわせ持ち、衣・食・住のあらゆることを他人任せにするのではなく、自分の手中に握っている。その強さやたくましさに学ぶことは、本当に多いものです。

2016年に発足した「山と海の郷さいかい」の民泊家庭は、2022年現在、40軒を超えるまでに成長しました。2018年、たった1校から始まった修学旅行の受け入れも、現在では年間2,000名ほどの予



晩御飯のおかずを求め、アジ釣りへ。



農家でなくとも家庭菜園や自家用の田畑を持つ人が多い。
このお父さんも普段は海の男!



当たり前のように家にかまどがある風景。「タケンコ(筍)ばゆがくとに、ガスでやっとなれるもんね! 薪よ!」



「やっぱり釜で炊くごはんが美味しかね〜」と、お客様にも体験を提供。



林業に取り組むお父さんの山には、昔ながらの炭窯も。子どもたちは薪割りやシイタケのコマ打ち・収穫など、昔ながらの里山仕事を体験する。



昔ながらのかんころもちづくりや、西海市の特産品であるみかん狩りなど、食の体験も充実。



約をいただいています(※2020
〜21年は、新型コロナウイルスの影
響で受け入れできていません)。

関西や関東の都会で生まれ育った
中学生や高校生が、たった1泊でも
2泊でも、西海の暮らしの価値観や
人々のあたたかさになれるとき
……。私がニュージーランドで衝撃を
受けたように、「こうでなければなら
ない」という狭い常識の檻を抜けて、
「こんな生き方、暮らし方もあるの
か」と感じてもらえれば嬉しいです
し、今はピンと来なくても、やがて
社会に出た彼ら彼女らが困難に直
面したとき、ふと、地方での暮らし
を思い出してくれればと考えてい
ます。

農林漁業体験民宿事業の 意義と可能性

この体験民泊のおもしろいところ
は、取り組む地域によって、その「意
義」や「価値」をどこに置くかの考え
方が違うところ。どの地域でも市役



所や観光協会などと官民連携で進めていくことが多いのですが、「農林漁業（一次産業）の活性化」という文脈で取り組む地域では「農林課」などが関わり、「交流人口の増加」という文脈であれば「観光課」が関わる、といった具合。しかし私は、地域をあげてより横断的に、多角的に農泊事業を推進することができれば、と考えているのです。

体験民泊の最もわかりやすい利点は、やはり「交流人口の増加」でしょう。修学旅行で訪れることが無ければ、子どもたちは一生、「西海市」を知ることは無かったかもしれません。磨けば光る小さな宝物はたくさんあれど、一般的にはキャッチーな観光資源が無い農村地域へ、体験民泊をきっかけに旅行者が増えるのです。

さらに体験民泊のいいところは、地元の人々とのつながりが生まれることで、交流人口から「関係人口」へシフトしやすいこと。実際に一般のお客様で移住に結びつく事例もありま

すが、将来西海市を再び訪ねたり、暮らしたりしてくれる可能性もあるでしょう。

かたや地域にとっては、当然「お金が落ちる」という経済効果もあります（民泊家庭が5名、修学旅行生を受け入れた場合、1回で3万円ほどの収入になります）。継続的に安定した受け入れ・収入が得られれば、料理や釣り、庭いじりやものづくりなど、自分の好きなことや得意なことを活かしながら、無理なく副収入を得て、そのことがまた、あれもやってみよう、これもやってみようという活力を生み出します。

コロナ禍以前はインバウンド受け入れもあり、自分ではパスポートを持たないおばあちゃんの家にも、中国人や台湾人の方がやってくる、そんなこともありました。月に1度でも、2度でも、若い人や外国人との交流があることは、この西の端の田舎で暮らす皆さんにとって、大きな刺激となるはず。

このように、短いスパンで見れば、

交流人口の増加や地域にお金が落ちることが、体験民泊のメリットです。しかし、そこからもう少し視野を広げれば、地域の人々のシビックプライドの醸成や生きがい・やりがいづくりにもなっており、健康増進や介護予防といった視点で、福祉的価値もあると感じます。さらには、移住や多拠点生活といった新たなライフスタイルを見据える人々にも、この土地と関わり続けてもらうことができますし、消えゆく暮らしの知恵や文化を継承することの価値や、子どもたち

に伝えていくことの大切さは、いわずもがなでしょう。

こうしたさまざまな意義・効果を有機的につなげていくことができれば……体験民泊は単なる観光目線から一歩踏み込んだ地域活性化の事業として、多くの可能性を示してくれるのではないかと思います。



◀修学旅行で訪れる中学生や、若い世代に向け、「懐かしくてあたらしい暮らし」を伝えている。



市山 時一郎「ラ・マンチャの集落」1980年制作 油彩画 F30号

ヨーロッパの景色

2023年3月31日(金)～6月17日(土)

現在、十八親和アートギャラリーでは、季節展示室と絵画展示室1に於いて春季企画展「ヨーロッパの景色」を開催しております。多様な歴史と文化を持つヨーロッパは多くの日本人画家たちを魅了し、その風景や事物を主題とした作品は根強い人気があります。本展では、長崎県ゆかりの市山時一郎の「ラ・マンチャの集落」、山下純司の「サントリーニの村」のほか、南仏を拠点に活躍した山下充の「アルプスの見える村」、フランスの広場や朝市などを描いた作品で広く知られる児玉幸雄の「パリのバス停」など、油彩画、パステル画、版画による8点(初公開1点)をご紹介します。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。
※次回展の都合により日程を変更する場合があります

市山 時一郎(いちやま・ときいちろう):1911～1994。長崎県佐世保市生まれ。長崎師範(現、長崎大学教育学部)卒業。洋画家・納富進に師事。1950年第6回日展に初入選。長崎、佐賀県下ほか欧米へ取材旅行を重ね、日展と一水会展を中心に活躍した。日展会友。長崎県展審査員。サロンド・パリ会員。1986年紺綬褒章を受ける。佐世保市文化功労賞、サロンド・パリ展大賞、ほか受賞歴多数。

十八親和アートギャラリー

鑑賞 無料

【開館時間】10:00～16:00(入館は15:30まで)

【休館日】日・月・祝日、年末年始(12/30～1/4)

※土曜日が祝日の場合は開館

